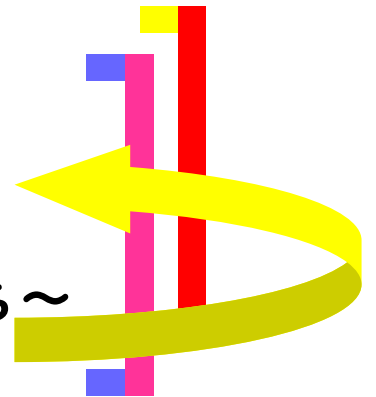
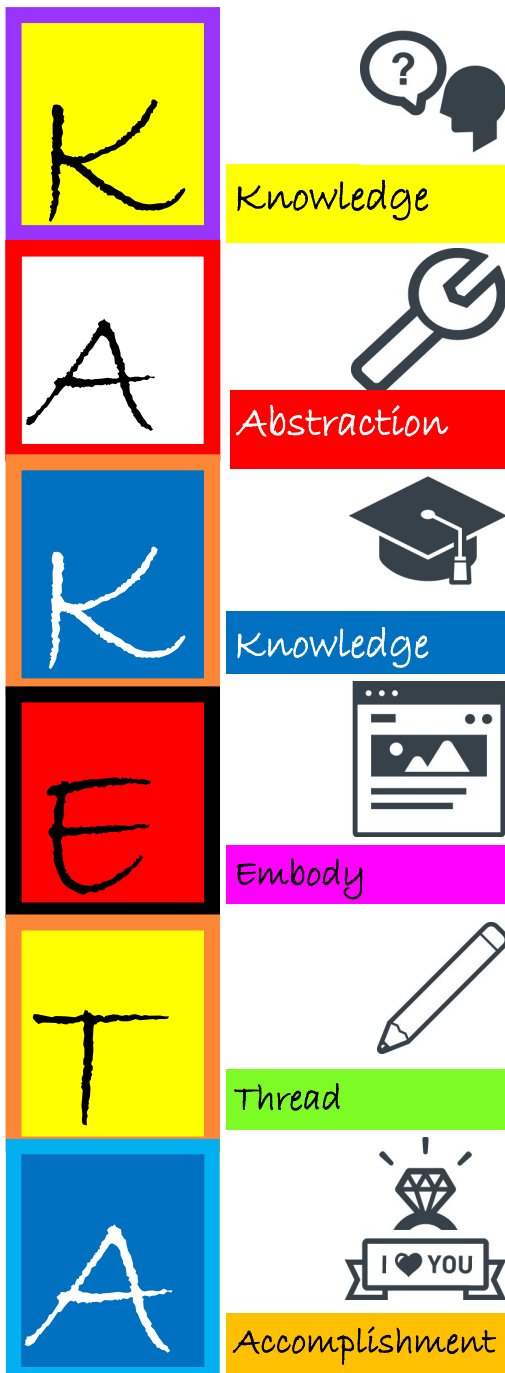


KAKETA!!



～具体と抽象を往還する子供たち～



あいさつ 狛江市教育委員会 教育長 柏原 聖子
社会の中で自立し豊かな人生を切り拓く力を培うため、言語能力や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成が求められています。とりわけ、「言葉」は学習活動を支える重要な役割を果たし、国語科を要として教育課程全体で言語活動の充実を図ることが必要です。
本校では、「書く力」と「論理的思考力」の相関に着目し、子どもたちの実態から「書く力」を育成するために、研究主題を「KAKETA!!—具体と抽象を往還する子供たち—」とし、国語科を中心として、「書く力の向上」、「タブレットの活用」、「日頃の取り組み」の三つの視点で実践を積み重ねてこられました。
また、論理的思考の構成要素について、「具体化思考力」を一般的な概念から具体的な情報を導き出す力、「抽象化思考力」を具体的な情報から共通事項や一般的な概念を導き出す力と定義付け、論理的思考力の向上を図る研究を推進されたことは意義深いものです。
本校の研究成果が狛江市全体に広まり、次代を担う子どもたちの資質・能力の向上につながることを願っております。

はじめに 校長 伊藤 栄司
本年度の研究は、変化の激しい社会を生き抜くために必要な力とは何かを考えるとところから始まりました。必要とされる力は様々ですが、本校の児童の実態から明らかになった一つの課題が抽象化力でした。そこで、記憶したことや表面的な事象に頼るのではなく、相手の話や全体の動き、身近な課題などから大まかに全体像をとらえる力を抽象化力としました。また、目指す児童像として「つまり」や「ようするに」の言葉を使い説明できる子としました。
一方で、抽象化すると内容が伝わりにくくなることもあります。相手や目的に応じて「例えば」の言葉を使い、具体的に考えたり説明したりする力も必要です。そこで、授業の中で児童の思考が「抽象と具体」を往還するように展開し、考えたことを上手く表現できるようにすることを研究の中心に据えました。最終的なゴールは相手や目的に応じて「話す」ことですが、第一歩として考えをきちんと整理して「書く」に焦点を当て進めました。
研究は道半ばではありますが、教職員一同知恵を出し合い4月より工夫してきた内容をここに発表させていただきます。具体的に研究の方向性をご示唆くださった帝京平成大学 准教授 寺岡聡志先生、貴重な機会を与えてくださった狛江市教育委員会に厚く御礼申し上げます。

研究主題 KAKETA!!

児童の様子と思考のプロセスを表す「KAKETA!!」

Abstraction⇐Knowledge⇒Embody



Thread



Accomplishment

K…Knowledge(具体的な知識や情報)

A…Abstraction(抽象化)

K…Knowledge(抽象的な知識や認識)

E…Embody(具体化)

T…Thread(構成に沿って書く)

A…Accomplishment(達成感を味わう)

!!…対話の様子。児童同士や児童と教員、児童と教材の対話を示す。

国語科「書くこと」と論理的思考力のかかわり

「書くこと」の内容の構成要素

①題材の設定 ②情報の収集 ③内容の検討 ④構成の検討 ⑤考えの形成 ⑥記述 ⑦推敲 ⑧共有

重点化

論理的思考力の育成

具体化思考力の向上



抽象化思考力の向上

「書く力」を高めることに有効なのではないか

「具体化思考力」、「抽象化思考力」とは

本校では、国語科で児童が働かせる論理的思考力の構成要素として「具体化思考力」と「抽象化思考力」があると考え、それぞれを次のように定義した。

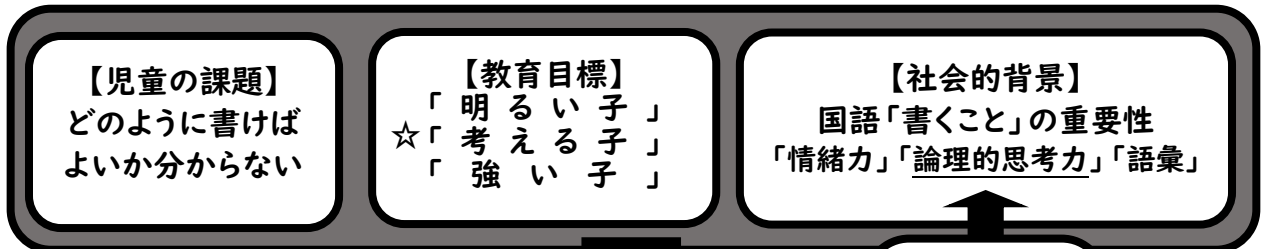
「具体化思考力」…一般的な概念から具体的な情報を導き出す力

「抽象化思考力」…具体的な情報から共通事項や一般的な概念を導き出す力

これからの時代に求められる国語力

文部科学省文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」(平成16年2月3日)では、「今後の国際化社会の中では、論理的思考力(考える力)が重要であり、自分の考えや意見を論理的に述べて問題を解決していく力が求められる」と述べられている。また、論理的思考力の育成においては、「書く」ことを中心に指導することの重要性が示されている。

2 研究構想図



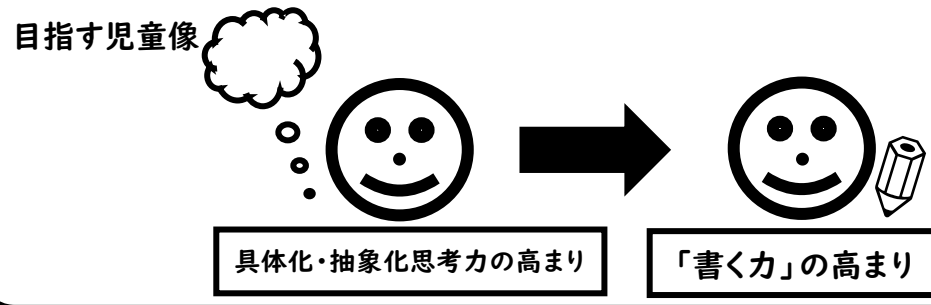
下位概念

KAKETA!!
 ~具体と抽象を往還する子供たち~

抽象化思考力
具体化思考力

研究仮説
 国語科「書くこと」や他教科の学習、日常的な取組等、児童の具体化・抽象化思考力を高める学習指導によって、児童の「構成に沿って文章を書く力」は高まるだろう。

具体化・抽象化思考力の高まり(アンケート・抽出児童の変容) ⇒ 書く力の向上(数値)



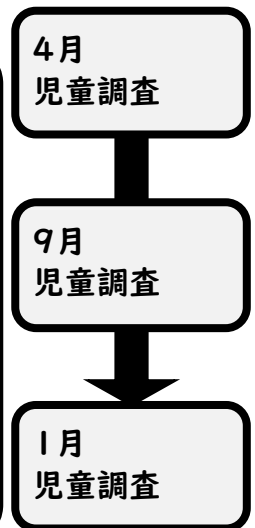
研究内容

国語科を中心とした具体化思考力・抽象化思考力を高める指導

- 国語「書く力」の焦点化**
 ③内容の検討 ④構成の検討
 ⑤考えの形成 ⑥記述

タブレット型端末機の活用
 ⇒思考ツール、記述ツール、学習の蓄積

- 日常の取組**
- ・感覚の言語化、簡略化
 - ・「つまり」を使ってまとめる
 - ・振り返り活動
 - ・児童の語彙を育てる活動

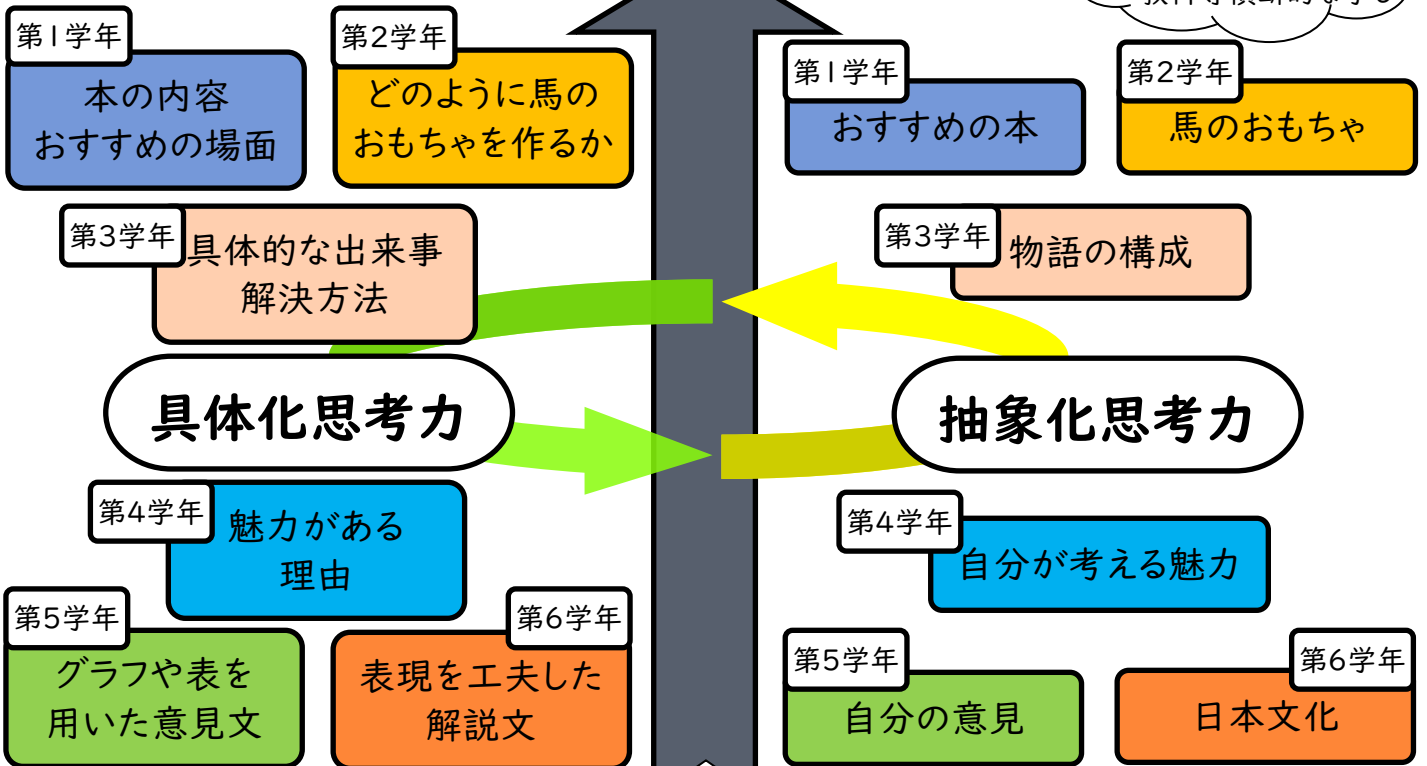


3 国語科における「書く力」を高める指導

具体化思考力・抽象化思考力が「書く力」を伸ばす

書く力の向上

「他教科」の学びへ活用
↓
教科等横断的な学び



相手意識・目的意識

学校の魅力を伝える相手が、1年生の場合と地域の方の場合では、書き方や書く内容の具体や抽象のレベルに変化が生まれる。

児童には「誰に」「何のために」文章を書くのかといった相手意識と目的意識をもたせることが重要である。

習得した知識の活用

「読むこと」の学習で習得した知識を「書くこと」に活用する。

例えば、説明的文章を読み、「分かりやすく伝わる文章」の構成を学び、習得した構成を活用して自分の説明文を書くことに活用する。

共有の時間

書き終えた成果物だけではなく、情報の収集や内容の検討の段階で共有の時間を設定することで、児童一人ひとりが様々な情報について具体的に・抽象的に捉えることができる。

また、推敲の段階でも共有の時間を設定することで、具体的な書き方の理解が深まる。

「国語科」を中心としたカリキュラム・マネジメント

4 実践事例

第2学年 組み立てを考えて書き、知らせよう 「こんなもの、見つけよう」(光村図書 国語二上)

モデル文を参考にして、自分の勧める場所の紹介文を書く

本教材は公園にある伝えたいものの組み立てメモと紹介文について書かれている。児童にとって、自分のおすすめの場所を伝えることは、経験から必要な事柄を集めるので考えやすい。また、伝えたいと思って書く文章だからこそ、交流の意欲も高まると考える。そこで、本教材の「中」を抜粋した文章を使い、おすすめを紹介するためには、場所の名前だけではなく行きたくなるような具体的な説明の必要性があることを学ぶ。また公園にあるものを例に、どんな魅力的なものがあるかを簡単に組み立てメモにし紹介文を書く。学習を通し、説明文の「初め」「中」「終わり」という文章のまとまりを意識することにつながることをねらいとする。

1 具体と抽象(「初め」と「中」)

抽象を「伝えたい場所」、具体を「おすすめのポイント」とした。相手が理解をより深めるためには、「伝えたい場所」という抽象的な概念から「おすすめの理由」「おすすめのポイント」などに具体化していくように指導した。

2 組み立てメモ(下書き)

「初め」「中」「終わり」が分かれているワークシートを使い、自分の考えを書いた。「中」は勧める理由を箇条書きにし文頭に番号を書けるようにした。「中」を書く前にどの順序で書けば相手が分かりやすくなるのか、児童の考えをまとめやすいうように指導した。

学習の成果

文章の構成の定着が不十分だった児童

し	り	し
か	ま	ぼ
こ	す	く
で	で	は
す	ぼ	ー
	く	学
	ほ	き
	こ	に
	く	こ
	ご	く
	の	ご
	き	ま
	く	か
	女	ん
	か	ぼ

本単元での学習前に書いた作文では、頑張りたいことと自分の現状しか書けなかった。



「初め」「中」「終わり」が分かれているワークシートを使い、自分の考えを書いた。「中」は勧める理由を箇条書きにし文頭に番号を書けるようにした。「中」を書く前にどの順序で書けば相手が分かりやすくなるのか、児童の考えをまとめやすいうように指導した。

本単元の学習を経て、「初め」「中」「終わり」の構成を考えて書けるようになった。また、ナンバリングを使い、読み手が読みやすいようにまとめることができるようになった。

第3学年

段落とその中心をとらえて読み、組み立てを考えて書こう 「こまを楽しむ」(光村図書 国語三上)

読む学習で習得した知識を活用して、自分の説明文を書く

本単元の教材文「こまを楽しむ」は、日本にあるこまの種類と楽しみ方について説明している文章である。具体的にこまについて書かれている「中」と、こま全体について抽象的に書かれている「初め」「終わり」になっていて、児童にとって文章の構成が理解しやすい。そこで、この教材文を用いて、段落や「初め」「中」「終わり」など、文章のまとまりを意識して読むことを学ぶ。

次に習得した文章の構成についての知識を活用して相手に伝わるように自分の説明文を書く。教材文で学習した段落や「初め」「中」「終わり」などの文章のまとまりを意識し、事柄ごとに段落を分けることで、構成を工夫することができるようになることをねらいとする。

1 具体と抽象(問いと答え)

抽象を「昔遊びについて自分が伝えたいこと」、具体を「調べて分かった事実」とした。昔遊びという抽象的な概念から、けん玉やすごろくなどに具体化していった。さらに、調べた事実を基に昔遊びについて自分が伝えたいことを問いの文にしてより具体化していくように指導した。

2 思考ツールの活用

イメージマップを活用して昔遊びという抽象から具体化していった。また、フィッシュボーン図を活用して自分が調べたことを整理するとともに、さらに必要な情報が何かイメージを広げた。思考ツールを適宜取り入れることによって、児童が文章を書きやすいように指導した。

学習の成果

文章のまとめや段落意識の定着が不十分だった児童

す	か	か	と	
。	ん	ど	ん	は
	さ	う	さ	く
	つ	し	つ	り
	ち	て	お	科
	る	か	る	び
	こ	と	こ	い
	と	い	と	ろ
	が	う	で	い
	好	と	す	ろ
	き		。	な
	だ	生		生
	か	き		き
	ら	物		物
	で	を		を

本単元での学習前に書いた作文では、まとめを書けなかった。

「だからこうしたい」などといった終わりの段落を設定することができなかった。



い。	あ	こ	か	け		日
	り	の	自	ん		本
	ま	と	分	に		一
	す	う	の	さ		周
	。	に	方	し		は
	み	け	を	ま		玉
	な	ん	向	す		を
	さ	玉	く	。		引
	ん	に	よ	皿		き
	も	は	う	に		上
	せ	い	に	玉		げ
	び	ろ	お	が		て
	や	い	る	の		大
	。	ろ	い	。		皿
	て	い	い	た		に
	み	ろ	い	と		の
	て	ろ	い	き		せ
	く	な	で	。		て
	だ	わ	す	あ		
	さ	が	。	な		

本単元の学習を経て、「このように」の接続詞も使って、終わりの段落をまとめとして書けるようになった。

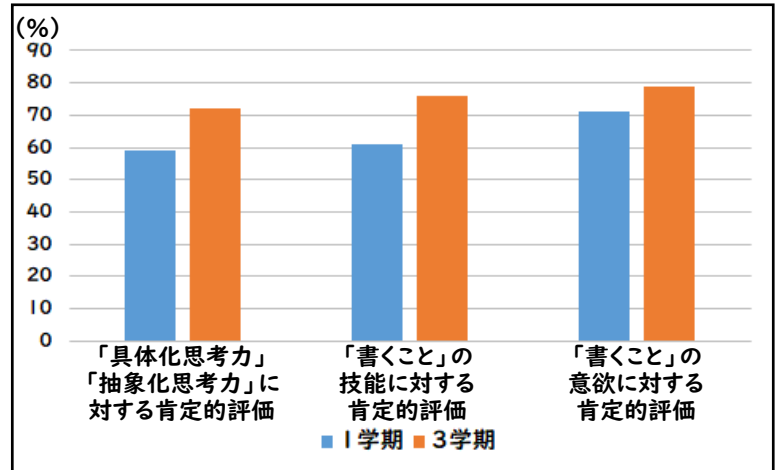
5 児童の変容

(1) 5分間作文の平均文字数

※児童の「書くこと」の技能の変容を5分間で書くことができる文字数や段落構成等から捉えることを目的とした。各学期の初めに「学期のめあて」を題材に5分間で作文を書いた。

	1学期	2学期	3学期
第1学年		25	55
第2学年	69	80	113
第3学年	82	97	129
第4学年	71	98	118
第5学年	95	122	166
第6学年	131	137	169

(2) 「書くこと」に対する自己評価アンケート



6 成果(○)と課題(●)

- 具体化思考力、抽象化思考力を高めることができ構成に沿って文章を書く力が向上した。
- 5分間作文の3学期の平均文字数が、次の学年の1学期の平均文字数を超えた。
- 文章全体のまとまりや段落を意識して文章を書くことができるようになった。
- 文章を書くことに対して意欲的になった。
- 「書く力」に焦点化した単元の作り方について理解を深めることができた。(教員)

- 「書くこと」の意欲に対する肯定的評価の4月からの伸びが他の2点に比べると小さかった。
→児童が自身の成長や達成感を感じられる教員のフィードバックや、国語科を中心としたカリキュラム・マネジメントの更なる検討が必要である。
- 「書くこと」に対して強い苦手意識をもつ児童の割合は、やや減少したもののほぼ横ばいであった。
→個別最適化された学習について更なる検討が必要である。

御指導いただいた先生

帝京平成大学 准教授 寺岡 聡志 先生、狛江市教育委員会 指導室の皆様

研究に携わった教職員

校長:伊藤 栄司 副校長:岩淵 美香 ◎ 研究推進委員長 ○ 研究推進委員

○佐藤 智子	山本 希世	吉田 翔	高須 優子	○清水 亮輔	栗原 初音	奥秋 孝詞	伊藤 直美
川地 民恵	伊藤 麻子	○宮本 智明	渡邊 美希	宮島 誠	芦川孝志郎	○林 佑香	金子 謙
恵津森奏子	田中 詩織	◎富岡 佑太	○赤坂 淳	○叶 莉奈	山田 周吾	阿河 真志	岩田 秀佳
一寸木 瞳	○山野井 誠	阿竹 明子	榮 有紀子	佐藤いずみ	川端貴久美	田代 栞	金子博太郎
三瀬 由美	神山 郁恵	半田 有紀	本多 桃代	本多志津江	マケイラ・フライ		

おわりに

「どのように書けばよいか分からない」という子供への指導を、実際にどう進めていったらよいかと悩む方も多いと思います。本校の教員もこれらの悩みを整理しながら一つの課題に向かって解決を図ってきました。教科の差、発達の段階の差はあっても、全教員が同じ方向を向いて取り組むことで学校全体の力になることを体感することができました。

結びにあたり、年間を通じて御指導くださった講師の帝京平成大学准教授 寺岡聡志先生、貴重な研究の機会を与えてくださった狛江市教育委員会に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

狛江市立狛江第五小学校 副校長 岩淵 美香



狛江市立
狛江第五小学校
KOMAE DAI-GO ELEMENTARY SCHOOL

東京都狛江市東野川1-35-13
電話：03-3489-4430
FAX: 03-5497-7355
HP :http://www.komae.ed.jp/ele/05/